

教材としての映画活用の効果

—教職課程心理学系科目における YouTube 動画との比較—

柄本健太郎・田村順也

概要

本稿では、教職課程の心理学系科目において映画を教材として使用する際の具体的な教材開発例の提供と他映像教材との比較を目的とし、検討を行った。専門家と協働し教材開発を行い、授業内で教材を用いた介入を行い、介入の際に質問紙を用いた調査を行った。結果として、第一に、映画の選定基準、選定過程を含む教材開発例が得られた。第二に、異なる種類の映像資料（YouTube 映像）との比較により、障害に対する共感の程度の高まりと学修の楽しさの二つの面で、映画を用いた教材の効果がある可能性を指摘した。また、あくまで1時点のデータであるため別途検討が今後必要ではあるものの、共感の程度の高まりが学修の楽しさを向上させる過程も示唆された。

1. 問題

映画は、大学の授業における教材としての良さを多様持っている（例えば、小早川（2005）、網谷（2007）、林・上野（2009）、瀬戸（2013；2014）、柄本・田村・前田（2021））。柄本・田村・前田（2021）では、映画を教職課程の心理学系科目で教材として用いる良さを、教職課程の心理学系科目の授業担当者 A、映画に関わる企業関係者 B、学校にスクールカウンセラーとして関わる臨床心理士 C の三者が複数の立場からディスカッションを行うことにより検討し、対応する注意点と共に 8 つに整理している（表 1）。また、林・上野（2009）では、映画教材の有効性について質問紙調査を行うことで検討している。調査の結果、授業

テーマへの理解・関心の深まり、映画の多様な見方・学習、ドラマ性、洞察・共感、わかりやすさ、同一視の6因子を得ている。

表1 映画を教職課程の心理学系科目で教材として用いる良さ
(柄本ら(2021)を基に作成)

良さ	対応する注意点
・多義性による議論のしやすさ	・意図と異なる捉え
・貴重な事例の提供、疑似体験	・時間的制約
・質の保証	—
・入手しやすさ	—
・場所の選ばなさ	・オンライン授業での扱い
・リアルさ	・精神的な影響 ・脚色・強調・割愛
・操作しやすさ	—
・作品の豊富さ	—

映画を教材として授業で使う場合、有効性だけでなく、注意点にも目を向ける必要がある。例えば、小早川(2005)では、映画を授業で取り上げる危険性について、映画の視聴やその後のグループでの感想の共有によって、精神的な動揺と、動揺が日常生活へ影響を及ぼすことを挙げている。一方、心理的な影響以外にも注意点は存在する。柄本ら(2021)では、心理的な影響に関する注意点として「精神的な影響」を挙げ、それ以外の面として「時間的制約」「オンライン授業での扱い」「精神的な影響」「脚色・強調・割愛」を挙げている(表2)。

表2 映画を教職課程の心理学系科目で用いる際の注意点
(柄本ら(2021)を基に作成)

注意点	詳細
意図と異なる捉え	映画のもつ多義性、議論の余地の大きさは、見る人による捉え方の多様さをもたらす。一方で、授業者の意図とは異なる受け止め方を学生がする可能性も含む。事前に授業者の教材使用の意図を説明することに加え、視聴後に、学生が内容をどのように受け止めたのか確認することが欠かせない。

時間的制約	大半の映画は授業時間として標準的な 90 分を大きく超える。視聴前後の教育的介入の時間を確保するために、授業内で映画を視聴する場合は、場面を抜粋するか、授業回で 2 回以上を確保しなくてはならない。
オンライン授業での扱い	オンライン授業における映画視聴の運用については、著作物の教育利用に関する関係者フォーラム（2020）において検討中であることが示されている。オンライン授業での映画視聴の扱いが不明確なのであれば、学生が個別に映画を視聴する形で授業に教材として活用する方法が考えられる。この場合、学生に金銭的負担が生じることからも、視聴は任意となり、視聴有無は学生の自主性の影響を受けやすくなる。
精神的な影響	扱う事例によっては、学生にネガティブな影響を与えうる危険性について、注意が必要である。ネガティブな経験をした当事者が、その経験に関連した映画を視聴して傷つき、そのことの支援も得られないといったことのないよう、学生個別での視聴、視聴しないという選択肢の確保、視聴後の教員からのサポートとフォローが求められる。
脚色・強調・割愛	映画はあくまで現実の脚色であり、事例の正確性が必ずしも保証されるわけではない。そのため、映画のどのような点が脚色・強調・割愛されているのかについて、授業担当者が自覚的になり、学生に適宜注意喚起や、解説を行うべきである。

先行研究では、映画を大学授業にて導入する際の効果（良さと関連）と注意点が検討されてきた。一方、授業における実践例の蓄積も先行研究においてみられるなかで、未検討課題が 2 点指摘できる。

1 点目は、良さと注意点を踏まえた上での教材開発の事例が少ないことである。先行研究においては、映画を用いた教材の授業への導入効果が述べられることはあっても、選定基準や過程を含め、どのように教材を開発したかが詳述されることは散見する限り少ない。そのため、良さと注意点を踏まえた上での教材開発の事例を示すことは、映画を用いた効果的な教材の開発に寄与すると考えられる。なお、導入の際の具体的な手立てについては、例えば瀬戸（2013）では、15 回の心理学教育の授業の各回で一つずつ映画を選定し、「教員によるテーマの概説（20 分）、映画を分析する観点の説明（5 分）、映画視聴とワークシート記入（35 分）、個人とグループによる映画分析（20 分）、提示されたテーマに沿った 200 字のミニレポート作成（10 分）、次時に見にレポートの講評と補足説明」という流れで実施された。

未検討課題の 2 点目は、映像教材同士の比較である。教職課程や心理学系科目

において映画と他映像教材との比較を行った事例は散見する限りない。映画を用いた教材の効果を検討する際の一つの視点として、他の映像教材との比較を行うことは、より詳細かつ実証的に映画の良さを検討することにつながると考えられる。

2. 目的

以上を踏まえ、本研究では、大学授業において映画を教材として使用する際の具体的な教材開発例の提供、そして他映像教材との比較を目的とする。その際、教職課程の心理学系科目において、教材の開発と効果の測定・比較を行う。

3. 方法

3.1. 概要

教職課程の心理学系科目において、教材の開発と、質問紙調査による効果測定を行った。

3.2. 対象

3.2.1. 対象授業

教職課程の心理学系科目として2021年度後期に開講中の「教育心理学2（特別支援教育を含む）」を対象とした。週に2時限設定されている授業であり、1時限目と2時限目は別々の学生であった。共に第一著者が教員として授業を担当していた。教職課程における位置づけは、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」にあたる。授業時間は1回90分間であった。授業概要を表3に示す。

授業は大きく「学ぶこと教えること」と「学校における諸問題への対応」の二つに分かれていた。特別支援学校の教員を招きゲストスピーチを行う際、ゲストの日程に合わせるために、授業順序の入れ替えを一部行った（第4回、第5回）。また、新型コロナウイルス感染症対策として第1回から第4回まではオンデマンド型授業、第5回はオンラインミーティングサービスであるZoomを用いたライ

教材としての映画活用の効果—教職課程心理学系科目における YouTube 動画との比較— 柄本健太郎・田村順也
 プ配信型授業として実施された。第 5 回にゲストスピーチを実施した。

表 3 授業概要

順番	詳細
1	学ぶことと教えること (1) 学習と認知の心理学
2	学ぶことと教えること (2) 学習意欲の心理学
3	学ぶことと教えること (3) 知覚と記憶の心理学
4 (11)	学校における諸問題への対応 (4) 発達障害の理解 → ゲストスピーチの実施に伴い、テーマの順序を先にした
5 (13)	学校における諸問題への対応 (6) 教師と生徒の関係 → ゲストスピーチの実施に伴い、テーマの順序を先にした
6 (4)	学ぶことと教えること (4) セルフ・コントロールの心理学
7 (5)	学ぶことと教えること (5) 教授—学習過程 学習指導と学習評価 → 映画を用いた教材による介入を行った。
8 (6)	学ぶことと教えること (6) 読解と作文の理解と指導
9 (7)	学ぶことと教えること (7) 学級経営
10 (8)	学校における諸問題への対応 (1) 危機介入・スクールソーシャルワーク
11 (9)	学校における諸問題への対応 (2) 児童虐待
12 (10)	学校における諸問題への対応 (3) 不登校
13 (12)	学校における諸問題への対応 (5) 保護者の心理と対応
14	教育心理学の歴史・研究法・学び方
15	まとめ

※番号は変更後の授業順序、括弧内の番号は計画当初の授業順序をそれぞれ示している。

3.2.2. 対象者

3.2.1 で述べた対象授業を受講していた 56 名を対象とした。56 名のうち、介入を行った第 7 回授業に参加したのは 53 名であった。また、3.4 にて後述する質問紙に回答した学生は 40 名であった。1 時限と 2 時限の内訳を表 4 に示す。

表4 対象者の内訳

時限	履修登録者数	第7回の参加学生数	質問紙回答者数
1限目	32	31 (96.9%、100%)	25 (78.1%、80.6%)
2限目	24	22 (91.7%、100%)	15 (62.5%、68.2%)
合計	56	53 (94.6%、100%)	40 (71.4%、75.5%)

※括弧内は順に、履修登録者数を分母とした割合、第7回の参加学生数を分母とした割合を示す。

3.3. 教材

3.3.1. 映画

①教材とした映画

映画「ギルバート・グレイブ」(原題: What's Eating Gilbert Grape)の冒頭30分間を授業内で教材として用いた。

「ギルバート・グレイブ」はアメリカにて1993年、日本では1994年に公開された映画である。ジョニー・デップ演じる主人公のギルバート、そしてその弟としてレオナルド・ディカプリオがアーニーを演じている。アーニーは知的障害を持つ少年として映画内で描かれており、演じるレオナルド・ディカプリオはアカデミー助演男優賞にノミネートされた。

映画の舞台はアイオワ州の郊外であり、ギルバートを中心に据えつつも、ギルバートの家族(母親、弟であるアーニー、姉妹)や、友人、仕事先の上司、配達先の家族、旅をする中で車が故障し町に留まることとなった少女ベッキーの姿も描いている。

②映画の選定基準と過程

表1で前述した「映画を教職課程の心理学系科目で教材として用いる良さ」と「対応する注意点」を選定基準として、映画を選定した(以下、【】内は柄本ら(2021)での「良さ」、[]内は「注意点」をそれぞれ示す)。選考過程は、「大枠と形式面の確認」と「内容面の確認」の二つに大きく分かれた。選定過程を表5に示す。

表 5 映画の選定過程

段階 (大)	段階 (小)	選定基準	実施者
大枠と形式面の確認	第 1 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマとの関連の深さ ・ 【貴重な事例】 ・ 【入手しやすさ】 ・ 【質の保証】 ・ 『精神的な影響』 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業担当者 A ・ 企業関係者 B
	第 2 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『時間的制約』 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業担当者 A
内容面の確認	第 3 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【多義性による議論のしやすさ】 （『意図と異なる捉え』と関連） ・ 授業内で視聴するシーンの検討 ・ 【リアルさ】 （『脚色・強調・割愛』と関連） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業担当者 A ・ 特別支援学校の教員 C ・ スクールカウンセラー D

第 1 段階として、テーマとの関連の深さと、【貴重な事例】・【入手しやすさ】・【質の保証】・【多義性による議論のしやすさ】を考慮した選定を行った。

具体的には、第 5 回授業において知的障害を持つ児童・生徒が多く通う特別支援学校の教員を招き、ゲストスピーチを行ったこと、また、ゲストスピーチの準備もかねて第 4 回授業で発達障害について紹介したこと、学生の多くは介護等体験等を通じた特別支援学校への訪問の経験もなく事例の貴重さがあることの 3 点から、映画で扱うテーマは「障害」とした。

テーマの決定後、教職課程の心理学系科目の授業担当者 A、映画に関わる企業関係者 B の間で議論を行い、「障害」というテーマを含む映画のうち、【入手しやすさ】と演技の【質の保証】、さらに学生に与える『精神的な影響』を考慮し、比較的明るいもしくはニュートラルなストーリーを持つ「ギルバート・グレイブ」・「フォレスト・ガンプ」・「アイアイサム」・「Mommy」の 4 作品を候補とした。なお、「Mommy」は DVD での販売はなく、ブルーレイディスクのみ入手可能であったため、学生の授業後の入手しやすさを考慮し、この時点で候補から除いた。

第 2 段階として、『時間的制約』の検討を行うため、前述の授業担当者 A が候補となった映画の長さを整理した (表 6)。映画の長さになきな差は見られなかったこと、また、本稿での介入では、教材として映画を 1 本すべて学生に観てもらうのではなく、口頭説明と組み合わせて一部分を観てもらう形式としたことの 2

点から、『時間的制約』は、本稿での候補の絞り込みには影響しなかった。

第3段階として、映画の【多義性による議論のしやすさ】と【リアルさ】を検討するために、授業担当者Aが、障害を持つ方に普段から多く関わる専門家2名に確認を依頼した。専門家2名は、それぞれ、特別支援学校の教員C（前述のゲストスピーチのゲスト）と、スクールカウンセラーDであった。専門家2名には研究の趣旨を説明した上で了解を得て、映画のDVDを送付し、コメントを得た。教員Cからは3本の候補全て、スクールカウンセラーDからは「ギルバート・グレイブ」に関してのみコメントを得た。コメントを得た後、授業担当者Aと必要に応じてオンライン上でやり取りを行い、コメント内容を確認した。

依頼事項を表7に示す。なお、第1段階において『精神的な影響』を考慮した上で専門家へのコメントを依頼したが、第3段階でも再度同事項の検討を行うことも映画がネガティブな内容を取り扱っている場合には必要と考えられる。

表6 候補となった映画のテーマとの対応、時間

映画	テーマとの対応	時間
ギルバート・グレイブ	知的障害	1時間58分
フォレスト・ガンプ	知的障害	2時間22分
アイアムサム	知的障害、発達障害（自閉症スペクトラム障害）	2時間12分
Mommy	発達障害（ADHD）	2時間18分

表7. 確認依頼事項

	依頼文	検討事項
1	ご覧になった映画の中で、【障害を持つ方の生き方】もしくは【障害を持つ人の日常】を特に印象的に描いており、教職課程で学ぶ大学生に見てもらいたいと思えるシーンがあれば、1～2つほど教えてください（具体的に描かれていてイメージを持ちやすくなるシーンだけでなく、解釈や意見が分かれて学生の議論や思考を促進しそうなシーンも大歓迎です）。	<ul style="list-style-type: none"> ・【多義性による議論のしやすさ】 ・授業内で視聴するシーンの検討

2	<p>ご覧になった映画は、全体として、実際の【障害を持つ方の生き方】もしくは【障害を持つ人の日常】に忠実に描いているでしょうか（例えば、表現として誇張しすぎている、反対にあっさり描きすぎている場合は、学生に視聴の際の注意点として伝えたいと思います）。</p>	<p>・【リアルさ】 ・『脚色・強調・割愛』</p>
3	<p>【任意】（もし何かあった場合のみで結構です）これから障害について詳しく知ろうと思ってこの映画を観る教職課程の学生に、何か伝えたいことがあれば、教えてください。</p>	

結果として、「ギルバート・グレイブ」について、印象的なシーン3件と【リアルさ】を支持するコメント、大学生へのメッセージなどが得られた。「フォレスト・ガンプ」については、純粋で誠実な生き方は大学生に観てもらいたいと思う一方で、ファンタジー色が強いいため障害というテーマとは必ずしも関連が強くない可能性が指摘された。「アイアムサム」については、ストーリーの良さや仲間や家族の大切さが感じられるシーンが多かったことと、自閉症スペクトラム障害の特徴は描かれていたが、7歳の知的障害の設定とはとらえにくかったことが指摘され、大学生へのメッセージが得られた。

専門家2名から得られたコメントを基に、授業者Aが総合的な検討を行い、「ギルバート・グレイブ」が適切な教材であると判断した。また、特に印象に残るシーンを含むこと、冒頭から視聴することで映画を観ている感覚を得やすいことから、映画の冒頭30分間を授業内で視聴することとした。さらに、「ギルバート・グレイブ」の中で描かれている障害は知的障害が主であるため、映画に付随する教材では知的障害を扱い、比較対象となる YouTube 映像と付随する教材では発達障害を扱うこととした。

3.3.2. 映画に付随する教材

映画に付随する教材としては、知的障害の定義、要因などについて、第4回授業で紹介したスライドを再度用いた。教材全体の概要を表8に示す。また、映画に関するスライドを本稿の末尾に示す。

映画に関するスライドでは、瀬戸（2013）において「教員によるテーマの概説」、「映画を分析する観点の説明」、「補足説明」が行われていたことを参考に、映画視聴前に「映画の概要」スライドと「教材としての映画」スライドの中で、映画を視聴する目的、視聴の際のテーマ、分析する観点を紹介した。このとき、映画のもつ多義性や、観る観点が複数ありうることを念頭に、あくまでスライド上に示すものは例であることを口頭で強調した（【多義性による議論のしやすさ】・『意図と異なる捉え』と関連）。

また、小早川（2005）が指摘するような学生への『精神的な影響』が視聴によって発生した場合に対処するため、「視聴の際の留意点」スライドの中で「気分が悪くなったときなどは、いつでも退席しても構いません」と記し、口頭でも説明した。

さらに、柄本ら（2021）で得られた教材としての良さや注意点に対応して、映画の教材としての良さや注意点の説明を「視聴の際の留意点」スライドの中で行った。映画の視聴後は、事前に専門家から得られたコメントを基に、シーンの解釈を「場面の解釈」スライドによって紹介した（【多義性による議論のしやすさ】・『意図と異なる捉え』と関連）。また、表現のリアルさについて、専門家の意見を「表現の正確さ」スライドの中で説明した（【リアルさ】・『脚色・強調・割愛』と関連）。

表 8 教材全体の概要

種類	詳細
映画	・「ギルバート・グレイブ」(1時間58分のうち冒頭30分)
映画に付随する教材	視聴前 ・知的障害に関するスライド ・口頭説明 ・映画に関するスライド * 映画の概要(原題、公開年、監督、出演者、あらすじ) * 教材としての映画(視聴の目的、視聴の際のテーマ、分析する観点の例など) * 視聴の際の留意点(教材としての良さと注意点、退席可能な教示) 視聴後 ・映画と知的障害に関するスライド * 場面の解釈 * 表現の正確さ * 専門家からのメッセージ
YouTube 映像	・「自閉症のきょうだいがいるということ」(2分間)
YouTube 映像に付随する教材	視聴前 ・発達障害に関するスライド * 民間のポータルサイトの紹介 視聴後 ・発達障害に関するスライド * 「『障害や病気がある子どもの“きょうだい”』について先生に知っていただきたいこと」(藤木, 2018)の抜粋 * 障害を持たない周囲の子にどう接するか * 保護者から批判を受けた場合への対応例 * 具体的な教師の関わり方(情報サイトの紹介)

※知的障害に関するスライドは第4回授業(オンデマンド型)で紹介した内容の再掲であった。
 ※発達障害に関するスライドは第4回授業の内容を踏まえた補足情報であり、学生にとっては初出のものであった。

3.3.3. YouTube 映像

発達障害について学生が深く理解できるよう、事例に近い内容として映像「自閉症のきょうだいがいるということ」(ハフポスト日本版, 2016)を使用した。本映像は2分間の短いビデオクリップであり、YouTubeにおいて公開されている。内容は、自閉症スペクトラム障害のきょうだいを持つ家族が複数組登場し、カメラに向かい自らの経験や思いを語るものである。映像では、家族が「自閉症のきょうだいがいることについて周りはどう思ってるみたい?」、「自閉症のきょう

うだいがいることで一番大変なことは?」、「自閉症のきょうだいから学んだことは?」、「弟についてなにか言いたいことはある?」といった問いかけに答えている。

3.3.4. YouTube 映像に付随する教材

YouTube 映像に付随する教材として、表 8 に示した情報を学生に提示した。

3.4. 質問紙

映画の教材としての効果を他教材と比較・検討するために、匿名かつ回答任意の質問紙調査を実施した。質問紙は自記式であり、教示文、選択式の量的質問項目、自由記述欄で構成されていた。提示した教示文と質問項目を本稿の末尾に示す。

量的質問項目は、林・上野（2009）において実施された質問紙調査 21 項目を参考に、8 項目を作成した（表 9）。それぞれ「障害への関心」・「障害に関する学修への動機づけ」等を測定することを意図した。選択肢は（1）「まったくそう思わない」から（5）「まったくそう思う」までの 5 件法であった。

その他、授業内容、授業の運営方法、授業で扱った教材に関する感想・要望等を回答できる自由記述欄を設けた。

質問紙の表面と裏面は表題以外同一の教示・量的質問項目・自由記述欄であった。表題はそれぞれ表面が「【○映画】教材と心理学系授業に関する調査」であり、裏面が「【●口頭説明】教材と心理学系授業に関する調査」であった。

表 9 量的質問項目

分類	質問文
1. 障害への関心	障害への関心が高まった
2. 障害に関する学修への動機づけ	障害についてもっと学びたい
3. 障害への理解	障害について理解が深まった
4. 障害に関するとらえ方・考え方	障害のとらえ方・考え方が変化した

5. 障害を持つ人とその周囲の人への共感	障害を持つ人とその周囲の人に共感した
6. 障害に対する身近さの感覚	障害を身近な事柄と感ずることができた
7. 学修内容の楽しさ	学修内容は楽しかった
8. 学修内容の興味深さ	学修内容は興味深かった

3.5. 手続き

教材による介入は、第7回授業時に行った。第7回は対面授業として中教室にて行われた。手続きの流れを表10に示す。

①事前準備

第1回授業から第5回授業までは新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンライン授業であった。このうち、第1回授業から第4回授業まではオンデマンド型授業、第5回授業は双方向ライブ型授業であった。

映画で扱うテーマに関連する授業内容としては、発達障害と知的障害に関する講義が第4回授業にて行われた。その後、第5回授業において、知的障害を持つ児童・生徒が多く通う特別支援学校の教員を1名招き、ゲストスピーチを行った。ゲストスピーチでの講演内容には、特別支援学校の教育活動や児童生徒の様子や、教員として特に心がけていることなどが含まれていた。

②介入

第7回授業において、教材を用いた学修を行った。授業冒頭で、授業の中で質問紙調査を実施すること、授業外の研究上の調査となるため回答は任意であり授業での成績評価には一切影響しないことなどを教示した。教示内容は質問紙の冒頭部分を読み上げた。

教示後、カウンターバランスのため1時限と2時限とで順序を変えて教材を提示した。具体的には、1時限目はYouTube映像(2分間)とスライドを用いた口頭説明(約20分間)が提示された(口頭説明+YouTube映像条件)。学修後、質問紙の裏面への回答を任意で求めた。質問紙への回答終了後、映画(30分間)とスライドを用いた口頭説明(約10分間)が提示された(口頭説明+映画条件)。学修後、質問紙の表面への回答を任意で求めた。

2時限目は1限目と逆の順序で教材が提示され、質問紙の回答面も教材に対応

して逆であった。すなわち、学生は1限目も2限目も二つの条件両方を経験するようにした。質問紙は授業内で配布し、授業終了後に教室内で回収した。質問紙の回答時間は各5分程度であった。

表 10 映画で扱ったテーマに関連する手続きの流れ

授業回	内容	形式
第4回 10/6	・発達障害（ADHD、ASD、LD）と知的障害に関する講義	・オンデマンド型授業
第5回 10/13	・特別支援学校教員によるゲストスピーチ	・双方向ライブ型授業
第7回 10/27	・介入 * 1時限目：教示→YouTube映像の視聴→質問紙回答→映画の視聴→質問紙回答 * 2時限目：教示→映画の視聴→質問紙回答→YouTube映像の視聴→質問紙回答	・対面授業

3.6. 分析方法

定量的分析にはHAD Ver.17.105（清水、2016）を用いた。なお、効果量の基準には水本・竹内（2008）を用いた。

4. 結果と考察

4.1. 教材

映画を用いた教材を作成する過程で、映画の選定過程・基準、映画に付随する教材が作成された。これらの選定・作成作業から得られた考察として次の点が挙げられる。

考察の第一点は、映画の選定過程・基準において、テーマとの関連性による大枠の設定と形式面の確認から始め、その後内容面に移行することで、【作品の豊富さ】という映画の良さを活かし、候補を複数選定した後に内容の詳細を検討できることが示唆された。教材とする映画を複数用意できることで、映画間で内容の適切さの比較につながられる。

ただし、選考過程の実施者に映画に関する企業関係者Bを含んでいたように、

【作品の豊富さ】を活かすためには、そもそも特定のテーマに関する作品群についての広い知識が必要である。広い知識を持たない授業者に対しては、テーマに関連する作品群のリストや、既に選定過程を経た作品群のリストを用意することで、対応できると考えられる。

なお、映画を心理学系科目に教材として使用した先行研究においては、映画の選定過程が手順を追って行われていなかったり、選定基準の記述が省略化・短縮化されたりする事例がみられた。探索的なものではあるが、選考過程・選考基準を明確に示したことに本研究の意義があると考えられる。

考察の第二点は、映画の選考過程において実施した専門家2名の映画内容の確認作業が、映画を捉える視点の多様さ、解釈の多様さを与えてくれた点である。大学授業はリレー形式・オムニバス形式などの形式でない限り、授業担当者は単独となり、教材について日常的に議論を交わしながら授業を構成していくことは少ないと考えられる。そのため、映画を教材として作成する際は、主に、書籍での意見、オンライン上のコメント、学生からのコメントが映画を捉える新たな視点や解釈を得られる場となるであろう。専門家による確認作業が、それらとは別に、視点や解釈を得る場として機能することは、映画の持つ【多義性による議論のしやすさ】という良さを活かしたり、『脚色・強調・割愛』といった注意点に留意したりすることを助けてくれると考えられる。

ただし、専門家からコメントを得ることは、たとえ職場の同僚であったとしても、映画の視聴による時間・費用のコストがかかるため、頻繁に実施することは難しい。半期の授業の中で1～2回程度、映画を用いて授業を行うのであればコストはそれほど大きくならないが、半期の中で毎回映画を視聴するような場合は、数年かけて教材を整えていくことや、教材開発の時期を限定して集中的に数人で開発を行うことが手段として考えられる。

4.2. 量的調査

4.2.1. 教材の質

量的項目の基礎統計量を表11に示す。また、項目間の相関係数を表12に示す。

本稿で用いた映画を含む教材の質を検討するために、量的項目を用いて1変数のt検定を行った。「どちらでもない」の3点を基準に分析を行ったところ、すべての項目において1%水準で有意な差がみられ、3点よりも高かった。

この結果から、映画と付随する教材、YouTube映像と付随する教材は共に、教材としてある程度の効果はあったと考えられる。

また、特に効果のあった要素を検討するために、「そう思う」の4点を基準に1変数のt検定を行ったところ、「口頭説明+映画」条件の「障害を持つ人とその周囲の人に共感した」において1%水準で有意な差が、「学修内容は興味深かった」において1%水準で有意な差がみられ、いずれも4点よりも高かった。また「口頭説明+YouTube映像」条件の「学修内容は楽しかった」において5%水準で有意な差が、「学修内容は興味深かった」で1%水準で有意な差がみられ、いずれも4点よりも高かった。

これらの結果から、スライドを用いた口頭説明と映画を組み合わせた教材は、障害への共感の高まりと学修への興味深さという点で効果的であったと考えられる。映画のどのような特性が効果を発揮したかは本研究で得られたデータのみでは明確にはできないが、映画がストーリーと登場人物を持ち、主人公の内面描写を持つこと、扱った映画が悩める若者とその家族としての障害を持つ少年を描いている点など、学生が共感しやすい要素があったのではないかと推察される。

なお、知的障害に関するスライドによって口頭説明した内容は既習事項であったこと、スライドの内容は事例ではなく障害の定義・要因が主であるため、スライドよりも映画視聴の経験の方が共感の高まりに寄与したことが示唆される。スライドを用いた口頭説明とYouTube映像を組み合わせた教材では、学修の楽しさと興味深さにおいて効果的であったと考えられる。なお、発達障害に関するスライドでは学生にとって新規の事項を説明していたため、学修の楽しさと興味深さの高まりがYouTube映像のみの効果と判断することは難しい。

表 11 基本統計量

質問項目	<i>m</i> (<i>sd</i>)	範囲	<i>df</i>	3点比較			4点比較		
				<i>t</i>	<i>p</i>	<i>r</i>	<i>t</i>	<i>p</i>	<i>r</i>
映1 障害への関心が高まった	4.2(0.8)	2-5	39	9.07	.000	.82	1.18	.244	.19
映2 障害についてもっと学びたい	4.0(0.8)	2-5	39	7.68	.000	.78	-0.40	.688	.07
映3 障害について理解が深まった	3.9(0.7)	2-5	39	8.03	.000	.79	-0.89	.378	.14
映4 障害のとらえ方・考え方が変化した	4.0(0.8)	3-5	39	7.75	.000	.78	-	-	-
映5 障害を持つ人とその周囲の人に共感した	4.4(0.7)	2-5	39	13.03	.000	.90	3.55	.001	.50
映6 障害を身近な事柄と感ずることができた	3.8(0.9)	2-5	39	5.73	.000	.68	-1.43	.160	.22
映7 学修内容は楽しかった	4.0(0.9)	1-5	39	6.64	.000	.73	-0.35	.728	.06
映8 学修内容は興味深かった	4.4(0.6)	3-5	39	13.85	.000	.91	3.78	.001	.52
Y1 障害への関心が高まった	4.0(0.7)	2-5	39	8.84	.000	.82	0.22	.830	.04
Y2 障害についてもっと学びたい	3.9(0.8)	2-5	39	7.03	.000	.75	-0.78	.440	.13
Y3 障害について理解が深まった	4.1(0.6)	3-5	39	11.00	.000	.87	1.00	.323	.16
Y4 障害のとらえ方・考え方が変化した_t	4.0(0.7)	2-5	38	8.19	.000	.80	-0.22	.831	.04
Y5 障害を持つ人とその周囲の人に共感した	4.1(0.9)	2-5	39	7.58	.000	.77	0.36	.720	.06
Y6 障害を身近な事柄と感ずることができた	3.9(0.9)	2-5	39	6.81	.000	.74	-0.55	.584	.09
Y7 学修内容は楽しかった	3.7(0.9)	2-5	39	4.60	.000	.59	-2.48	.018	.37
Y8 学修内容は興味深かった	4.3(0.6)	3-5	39	12.60	.000	.90	2.72	.010	.40

※中央値 Med はすべて 4.0 であった。

※「映4 障害のとらえ方・考え方が変化した」は平均値が 4.0 のため 4 点を規準とした 1 変数の *t* 検定は実施できなかった。

表 12 項目間の相関係数

	映1	映2	映3	映4	映5	映6	映7	映8	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8
映1	1.00															
映2	.75**	1.00														
映3	.34*	.22	1.00													
映4	.39*	.48**	.31 ⁺	1.00												
映5	.56**	.48**	.14	.33*	1.00											
映6	.30 ⁺	.21	.17	.21	.48**	1.00										
映7	.33*	.32*	-.13	.10	.37*	.05	1.00									
映8	.55**	.46**	.03	.20	.33*	.23	.53**	1.00								
Y1	.60**	.58**	.40*	.34*	.40*	.01	.27 ⁺	.26	1.00							
Y2	.46**	.76**	.03	.23	.36*	.11	.24	.33*	.57**	1.00						
Y3	.22	.27 ⁺	.48**	.50**	.15	.17	.01	.03	.44**	.17	1.00					
Y4	.32 ⁺	.41**	.35*	.57**	.18	.12	.12	.08	.39*	.17	.67**	1.00				
Y5	.46**	.38*	.13	.29 ⁺	.54**	.38*	.46**	.29 ⁺	.32*	.30 ⁺	.18	.33*	1.00			

Y6	.39*	.34*	.32*	.29*	.32*	.45**	.03	.20	.41**	.28*	.25	.44**	.52**	1.00		
Y7	.33*	.34*	.06	.28*	.23	.23	.55**	.33*	.37*	.30*	.38*	.43**	.35*	.23	1.00	
Y8	.52**	.64**	.01	.29*	.41**	.24	.33*	.57**	.31*	.60**	.12	.24	.20	.09	.53**	1.00

※ ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

4.2.2. 教材の比較

教材によって特徴に差があるかを検討するために、教材を要因とした対応のある t 検定を行った。分析の結果、「障害を持つ人とその周囲の人に共感した」($t(39) = 2.69, p = .0104, d = 0.42$) と「学修内容は楽しかった」($t(39) = 2.22, p = .0325, d = 0.33$) において 5%水準で有意な差がみられ、共に「口頭説明+映画」条件の方が高かった。結果を図1に示す。

この結果から、映画を用いた教材では、共感の程度を高める効果が高いこと、学修内容が顕著に楽しいことが示唆された。映画の効果として共感の程度が高まることについては、林・上野 (2009) でも指摘されているが、本研究では他の映像教材と比較した際も特徴として際立って持っていることが新たに示唆された。

ただし、扱った障害の種類をはじめ、スライドの内容、映像の内容、映像の長さの違いがあるため、映画を用いた教材のどの要因が影響したかは今回の質問紙調査では明確ではない。そのため、教材のどの部分が、今回見られたような差に特に影響を及ぼしたのか、別途検証が必要である。例えば、映画を本研究で扱ったフィクションから、より現実に近いノンフィクションのドキュメンタリーに替えた場合に、共感の程度にどのように影響を与えるかを検討することも意義があると考えられる。

4.2.3. 学修内容の楽しさの認知に影響を与える要因とは

映画を用いた教材において、学修内容の楽しさの認知に影響を与える要因を試行的に検討するため、説明変数を関心の高まりから身近さの感覚までの6項目の得点、目的変数を質問項目「学修内容は楽しかった」得点としたステップワイズの重回帰分析を行った。

結果を表13に示す。

分析の結果、VIF はいずれも 1.2 未満であったため多重共線性の問題はないと判断した。「口頭説明+映画」条件において、「障害を持つ人とその周囲の人に共感した」の標準編回帰係数が有意であった。効果量から見ると、決定係数は .14 と中程度であった。なお、「口頭説明+ YouTube 映像」条件において、「障害のとらえ方・考え方が変化した」と「障害を持つ人とその周囲の人に共感した」の標準編回帰係数が有意であり、決定係数では大きな効果量が得られた。

二つの条件共に、「障害を持つ人とその周囲の人に共感した」の標準編回帰係数が有意であった結果から、「障害」をテーマとした学修内容の楽しさを高めるためには障害を持つ人とその周囲の人への共感の程度を高めることが有効であることが示唆された。さらに 4.1.2 「教材の比較」における t 検定の結果を踏まえると、映画を用いた教材であることが共感の程度を高める効果を持つことも示唆されるため、さらなる検証が必要ではあるが、「映画を用いた教材が共感の程度を高め、それによって学修内容の楽しさも高まる」という過程も想定できるであろう。

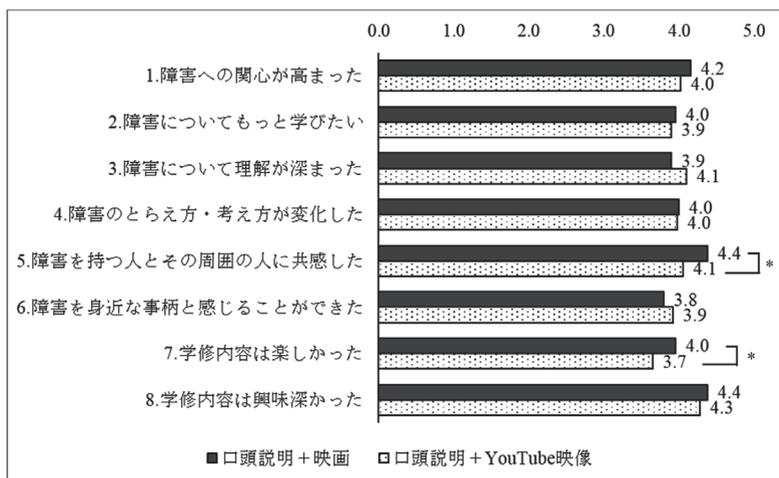


図 1 教材間の比較 (* $p < .05$)

表 13 重回帰分析の結果

質問項目	口頭説明+ 映画	口頭説明+ YouTube 映像
	b^*	b^*
1 障害への関心が高まった	-	-
2 障害についてもっと学びたい	-	-
3 障害について理解が深まった	-	-
4 障害のとらえ方・考え方が変化した	-	.33*
5 障害を持つ人とその周囲の人に共感した	.37*	.31*
6 障害を身近な事柄と感ずることができた	-	-
	R^2	
	.14**	.27**

※ ** $p < .01$, * $p < .05$

5. 総合考察

本研究では、教職課程の心理学系科目において映画を教材として使用する際の具体的な教材開発例の提供と他映像教材との比較を目的とし、検討を行った。

結果として、映画の選定基準、選定過程を含む教材開発例を示した。また、異なる種類の映像資料（YouTube 映像）との比較により、障害に対する共感の程度の高まりと学修の楽しさの面で、映画を用いた教材の効果がある可能性を指摘した。また、あくまで1時点のデータであるため別途検討が今後必要ではあるものの、重回帰分析の結果より、共感の程度の高まりが学修の楽しさを向上させる過程も示唆された。

本研究で扱った映画・映像は限られたものであり、選定基準・選定過程の効果検証も未検討課題として残されている。そのため、今後も映画を用いた教材が新たに開発され、事例蓄積・効果検証が進むことで、豊富なジャンルと作品数を含む、様々な良さを持つ映画が、教材としてさらに効果的に活用され、学生の学修の促進・深化につながることが期待される。

謝辞

本研究において貴重なコメントをいただきました先生方へ厚く御礼申し上げます。

6. 引用文献

- 網谷 綾香 (2007) 映画を用いた講義の効果：心の病気に対する臨床心理学的理解の促進, 日本教育心理学会総会発表論文集 49 (0), 79.
- 藤木 和子 (2018) 「障害や病気がある子どもの“きょうだい”」について先生に知っていただきたいこと. 明治図書 <https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20180851>
- ハフポスト日本版 (2016) 自閉症のきょうだいがいるということ
<https://www.youtube.com/watch?v=9o6NzvJLdOA>
- 林 智一・上野 徳美 (2009) 医療・臨床心理学教育における映画教材活用の試み -- 映画を用いた授業実践とその教育効果の実証的検討, 大分大学高等教育開発センター紀要, 1, 1-11.
- 小早川 久美子 (2005) 臨床心理学の授業における映画利用の試み -- その教育効果と課題, 心理教育相談センター年報, 13, 29-41.
- 水本 篤, 竹内 理 (2008) 研究論文における効果量の報告のために—基礎的概念と注意点—, 英語教育研究 31, pp.57-66.
- 瀬戸 美奈子 (2013) 心理学の授業における映画教材の活用, 大学教育研究：三重大学授業研究交流誌, 21, 41-45.
- 瀬戸 美奈子 (2014) 映画を事例シナリオとして活用した PBL の実践, 大学教育研究：三重大学授業研究交流誌, 22, 61-66.
- 清水 裕士 (2016) フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案. メディア・情報・コミュニケーション研究, Vol.1, pp.59-73.
- 柄本 健太郎・田村順也・前田 恵理 (2021) 教材として映画を活用することの良さと注意点—教職課程コアカリキュラムに基づく心理学系科目の場合— 武蔵大学人文学会雑誌, 52 (3・4), 146-131.

資料1 映画に関するスライド

映画「ギルバート・グレイプ」

- ・ 原題：What's Eating Gilbert Grape
- ・ 公開年：米 1993年，日 1994年
- ・ 監督：ラッセ・ハルストレム
- ・ 出演：ジョニー・デップ，レオナルド・ディカプリオ（アカデミー助演男優賞ノミネート）
- ・ あらすじ：アイオワ州，エンドーラ。この遠隔な町から生まれてこの方24年開出たことがない青年ギルバートは，ハンディを持つ弟アーニー，夫亡きあと過食症を病む250kgの母親，二人の姉妹の面倒を見ている。彼は家族を守ることに精いっぱい，自分の夢や希望を見失ってしまっている。ある日，彼の前にベッキーという少女が現れる。旅の途中で車が故障し，しばらく町に留まるのだ。…（DVD説明より）



教材としての映画

- ・ 映画を視聴する目的
 - 障害に対する理解等を深めるため。学修の魅力か
- ・ 視聴の際のテーマ
 - 知的障害
- ・ 分析する観点の例
 - 障害を持つ人なのか，「アーニー」なのか
 - ・ 分析的に捉えるのか，一人の人として全体を捉えるのか
- ・ 視聴後
 - コメント紹介
 - ・ 知的障害を持つ方に関わる専門家2名から

【視聴前】1. 映画の概要

【視聴前】2. 教材としての映画

視聴の際の留意点

- 映画の教材としての良さと注意点

良さ	注意点
・多義性による議論のしやすさ	・意図と異なる捉え
・貴重な事例の提供，疑似体験	・時間の制約
・質の保証	
・入手しやすさ	
・場所の選ばなさ	
・リアルさ	・精神的な影響
・操作しやすさ	・脚色・強調・割愛
・作品の豊富さ	

- 気分が悪くなったときなどは，いつでも退席しても構いません

視聴後の解説

・ 場面の解釈

- アーニーが給水塔を何度も登るシーンは，社会的ルールや人目，家族にダメだと言われたことは関係なく，自分が好きなものに向かっていくのは「（知的、発達）障害をもつ，このアーニーという少年の生き方」を具体的によく表していると感じた。（Aさん）
- そんなに謝らなくて良いと言われていた場面があったかと思いますが，小さい頃から保護者はいろいろな人に謝ってきている（実際に私も校外に出た時に似たような場面はありましたか）という話をしたことがあります。親や兄弟の思いについて考えました。（Bさん）

【視聴前】3. 視聴の際の留意点

【視聴後】4. 場面の解釈

・ 表現の正確さ

- 全体として，「障害をもつ人」というよりも「（知的、発達）障害をもつアーニーという人」の生き方や日常をありのままに描いているように感じた。
- 強いて言えば，ギルバートに殴られた翌日にギルバートに会ってバニックにならない様子や，ボニーの異変にすぐに気づいて激しいバニックを起こす様子は，映画を作者の意図に沿って進行するために，そのように描かれているように感じた。（Aさん）
- 障害に関するリアルさは描かれていると思います。ディカプリオは何を見て研究したのか？家族のちどかしさや愛が伝わりました。（Bさん）

・ メッセージ

- この映画の中で，ベッキーが「私も悪いと思っていない，あなたは？」とアーニーに尋ね，アーニーが「悪くない」と答えて，「私もアーニーも悪くないと思っている，だから悪くない」というような発言をしているシーンがあった。社会的に良い悪いという枠組みではなく，こういった良い悪いがあるということ，人によって枠組みが違うということ，「障害」という枠組みで相手を理解しようとするのではなく，目の前の相手の枠組みを尊重したり寄り添おうとしたりすることが大切なのだと思います。（Aさん）
- 自閉症、知的障害といっても，大学の勉強や映画の世界で知る特徴以外にも人それぞれで，日々新たな発見がたくさんあります。実際に接する機会があれば，積極的にやりとりをして，自分のイメージを広げてみて下さい。（Bさん）

【視聴後】5. 表現の正確さ

【視聴後】6. 学生へのメッセージ

資料2 質問紙

【○映画】教材と心理学系授業に関する調査

心理学系授業の中での教材の影響について研究を行っています。以下をお読みの上、もしよろしければ回答をお願いいたします。(2021/10/27 武蔵大学 柄本健太郎)

1. 正しい解答, 間違った回答というものはありません。思ったままにお答えください。
2. 回答をやめたくなったときは, 回答途中であっても, いつでもやめて構いません
3. 回答は任意です。また, 回答の有無・内容は授業の評価には一切影響しません。
4. 回答データは厳重に保管し, 外部に漏れないように管理します。
5. 個人が特定されない形で集計し, 授業改善・論文発表等の研究に活用させていただきます。
6. 本質問紙の提出をもって, 協力への同意とさせていただきます。

1. 今のあなたのお考えをお聞きます。当てはまる数字に丸をつけてください。

	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	まったく そう 思う
1. 障害への関心が高まった	1	2	3	4	5
2. 障害についてもっと学びたい	1	2	3	4	5
3. 障害について理解が深まった	1	2	3	4	5
4. 障害のとらえ方・考え方が変化した	1	2	3	4	5
5. 障害を持つ人とその周囲の人に共感した	1	2	3	4	5
6. 障害を身近な事柄と感ずることができた	1	2	3	4	5
7. 学修内容は楽しかった	1	2	3	4	5
8. 学修内容は興味深かった	1	2	3	4	5

2. 授業内容, 授業の運営方法, 授業で扱った教材について, もし何か感想・要望等あればお答えください。特になければ空欄で構いません

ご協力ありがとうございました。